

アトリエ 琉游舎 だより 69号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

2020年1月1日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>



- ★今年もみんなで作る琉游舎をよろしくお願いたします
- ★引き続き読書会 詩話会 映画会 写経会をやっていきます
- ★皆さんのこんなことしたい あんなことやりたいがあったら
お知らせください 是非一緒にやっていきましょう

- ・写経会は毎月第一日曜日に行います。(1月は2週目です)初めての方も写経に必要な道具一式ご用意しています。手ぶらでお越し下さい。手本をなぞる方法、経文を隣に置いて白紙で写経する方法など、皆さんのお好みの方法で写経して下さい。文字に一心に向かい合っていると1時間という時があっという間に過ぎてしまいます。
- ・読書会は現在歎異抄を読んでいきます。途中参加では分からないということがないように、今まで読んだところを再度復習をしながら毎回新しい章を一章分詳しく読んでいきます。ゆっくり読みながらの雑談会のようなものです。テキスト資料をご用意しています。お待ちしております。
- ・詩話会は毎週第2土曜日に、戸井みちおがセレクトした詩人の5作品ほどを読んで解説していきます。現代詩は難しいもの、自分には縁遠いと思われる方も一度覗いてみてください。
- ・映画会は昔の名画を上演しています。面白いです。懐かしいです。昔のスターはカッコよく美人です。
- ・居酒屋の会は毎月25日16時からです。皆さんで飲み物食べ物を持ち寄っておしゃべりをする会です。初対面の方も食べて飲んで喋ればいつの間にか対話の輪が広がっていきます。

1月2日から9日まで琉游舎は休舎致します。(1月2、9日の映画会もお休みです)

詩話会

1月11日(土)
13時半から

写経会

1月12日(日)
13時半から

読書会

13時半から「歎異抄」を1段ずつゆっくり読んでいきます。テキストもあります。途中からの参加もOKです。

居酒屋の会

1月25日(土)
16時から

映画会

毎週木曜日
13時半から

1月2日と9日の映画会はお休みいたします。

1/16 木	13時半	靴みがき (90分)	ヴィットリオ・デ・シーカ監督。混乱した戦後の社会で靴みがきをしながら懸命に生きる二人の少年。しかし闇商売の手伝いをしたことで逮捕されてしまう。
1/23 木	13時半	獣人 (100分)	ジャン・ルノワール監督、ジャンギャバン主演。機関士のジャックは駅長のルポーと妻が犯した殺人事件の唯一の目撃者だった。捜査が進む中で恋に落ちる二人。
1/30 木	13時半	三つ数えろ (114分)	ハワード・ホークス監督、ハンフリー・ボガード主演。主人公の探偵フィリップ・マーロウは、富豪の退役将軍に呼ばれあるゆすり事件の調査の依頼を受ける、、、
2/6 木	13時半	バルカン特急 (98分)	ヒッチコック監督。東欧から英国へ帰る列車の中である婦人の失踪に気づいた主人公。しかし他の乗客はその婦人の記憶はなく、、、ヒッチコック英国時代の傑作。

今回の狂言綺語は元旦の発行となりました。皆さん、正月はどのようにお過ごしですか？あわただしい年の瀬と帰省ラッシュを乗り越えて、元旦は実家でのんびり過ごすことが出来ているのでしょうか。子や孫が帰省して逆に忙しい正月を過ごしているのでしょうか。テレビとお屠蘇とおせちの寝正月もいいですね。ついこの間までは日本人の正月の行動パターンは大体似たり寄ったりだったのではないのでしょうか。私が上京した40年以上前は一人で正月3日を東京で生活することはほぼ不可能でした。お店はどこも開いていません。もちろんコンビニもありませんでした。繁華街でたまさか営業している喫茶店は通常の3倍以上の正月特別料金でした。だからというわけでもありませんが、とにかく正月は実家に帰ることがあたり前だったのです。

離れ離れに暮らす家族が年二度全員集まる日の一つが正月。もう一つは盆です。核家族化する以前は親類縁者一同が本家に集まる日でした。そして集まった人たちで「年神」を迎える日だったのです。この年神とはもとは先祖の霊が一つとなった「祖霊」であると言われていています。地方によっていろいろな意味合いがあるようですが、柳田国男は年神を1年を守護する神、農作を守護する神、家を守護する祖霊の三つの神が一つになった民間信仰の神が年神様だとしています。注1本来正月と盆は祖霊祭祀の機会、死者のための祭りの日だったのです。この一年を無事に過ごすことが出来るよう、豊作をもたらすよう、家内安全であるようにとご守護してくれる年神様を家にお迎えし感謝する日が正月だったのです。門松も鏡餅も御節料理も年神様をおもてなしするものだったのでしょうか。もはや核家族化どころか家族も崩壊し始めて、友達や一人で過ごすことが多くなった現代の正月に、私たちはどの神様をもてなしどの神様にご守護をお願いしているのでしょうか。神様は供物と感謝を怠らなければ善神として私たちを守護してくれます。しかしいったんそれを怠ると悪神となって私たちに祟りをなします。普段神様や仏さまへの信心がない大方の日本人も初詣には出かけるでしょう。やはり迷信として一蹴するには引かかる何かが正月にはあるからなのではないでしょうか。

仏教の基本的な考え方では、仏さまがお盆や正月に家に戻ってくることはありません。仏さまになるということは六道輪廻から解放（解脱）されて、苦に満ちた現世を離れた存在になったことを言います。仏さまは家族や子孫に戻って来てくださいとお願いされ、供物や感謝の言葉につられてまたのこのこと現世に戻ってくることはないのです。盆や正月に祖霊を家にお迎えするという考え方は仏教の根本の教えと矛盾します。しかしこの矛盾を矛盾とすることなく民俗信仰としてつい現代まで連綿と続いてきた祖霊祭祀の伝統は、仏教が伝来するずっと前から日本人の心のDNAにプログラムされていた信心なのでしょう。日本の仏教はその信心の上に立っているのです。宗教は本来排他的なものです。改宗はそれまでの信心をすべて破却しないと成立しません。しかし仏教は日本人の本来の信心を破却することなくその上にお釈迦様の教えを積み上げていった歴史があります。これが「心のDNA」に組み込まれた神への信心と「教え」としての外来の仏教信仰とが融合・調和して今にまで続く神仏習合の伝統です。明治維新に神仏分離令が出て廃仏毀釈が起りましたが、権力が強制した法律は定着しようもなく今でも日本人は神仏習合の伝統の中にいます。「祖霊」が私たちを常に守護して下さるとする「生来の信心」の上に、現世を心安らかに豊かに楽しく生きるための「教えの信心」を日本人は常日頃行ってきたのです。殊更に他の宗教との違いを言い立てられることもなく、自分の信心を否定されることもなく、誰に強制されることもなく、とても平和的で自然な信心の在り方です。

仏教の正月を祝う法要は「新年祝禱会」です。祖霊に感謝し供養する日。仏教では本来祖霊を現世にお呼びすることはありませんので、自身の中に祖霊を現前させるために私は法要を行います。それは祖霊に来てもらうのではなく私たちが祖霊に会いに行くことです。祖霊（仏さま）に会いに行くということは私たちが仏の住まわれる場所に出向くということです。そしてその瞬間は私たちが仏さまになる瞬間でもあるのです。日蓮聖人のご遺文にある言葉です。「佛と申す事も我等の心の内におわします（中略）我等が心の内に佛はおわしましけるを知り候わざりけるぞ」注2聖人が言われるように、私たちの心の中には常に仏さまがいらっしゃるのに私たちはそれを知らないで毎日過ごしているのです。正月と彼岸と盆に行く琉游舎の法要は皆さんとともに私たちの心の中の仏さまにお会いする日であると私は考えています。形や方法は異なっても日本人の根底には祖霊を敬い感謝する信心が大きく根を張っているはずで、その根の上に太い幹と良い枝ぶりを広げていくことが永遠のいのちをつないでいくことそして日本をつないでいくことだと考えます。

1年前にも引用した日蓮聖人の正月について記した遺文を再録します。「正月の一日は日のはじめ月の始めとしのはじめ春の始め これをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく とくもまさり人にもあいせられ候なり」注3日蓮聖人が正月に女性信者の方から「蒸し餅百枚、果物一籠」を供養されたお礼に書いた手紙の一節です。要約すると「元日は一切の始めの日です。この日を大切にすると人は月が次第に満ち、日が普く照らしていくように、内には人徳を積み、外には人から敬愛をされるのです」となります。正月は一年のスタートの日。そのかけがえのない日を大切にすると、この一年も自分ばかりでなく周りの全ての存在と共に豊かで実りある楽しい日々を過ごすことができるという日蓮聖人の言葉を自分の身にしっかり納め、今年も心安らかな日々を歩いていくこと琉游舎：戸井 出琉・恭子を願い誓い行ってまいりたいと思います。合掌。（出琉）

注1：柳田国男「先祖の話」 注2、3：重須殿女房ご返事